

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 認知症高齢者グループホーム金木犀 2F

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900330		
法人名	医療法人 一秀会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム金木犀 2F		
所在地	〒021-0012 岩手県一関市宮前町14-9		
自己評価作成日	令和4年11月23日	評価結果市町村受理日	令和5年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所してまだ5年目の為新しく、入居される際、ご家族様は「新しく綺麗で良い」と言ってくださいます。清潔で、衛生面にも注意を払い、気持ち良く暮らしていけるよう努めています。1階、2階の職員も仲が良く、何かあった際は応援していただいています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設5年目を迎える2階建ての2ユニットの事業所である。一関駅や一関市役所からもとても近く、周囲には民家やマンション、各種事業所が隣接している。市内には、運営法人(宮城県栗原市)を同じくするグループホームやデイサービス、訪問介護等の事業所がある。事業所では、理念の「思いや願いを大切に」の実践に向けて、幅広い年齢層(10代から60歳代)の知恵と経験を活かし、風通しの良いチームワークのもとで、協力してケアサービスに取り組んでいる。利用者は、コロナ禍においても、職員とともに知恵を出し合い出来ることを工夫しながら、笑顔を絶やさず心豊かにゆったりと暮らしている。とりわけ利用者一人一人の好きなこと、やりたいことを楽しみながら取り組める縫物や編み物、梅漬けや貼り絵、折り紙等に力を入れている。開設2年目でコロナウイルス感染が拡大し、地域交流の機会が少なく、地域の一員として暮らしていけるよう、グループホームの地域密着を目指し、目線と方向性を合わせながら前向きにケアに取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和4年12月13日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 2F

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所や廊下に貼り、いつでも見て行動できるようにしています。	職員は、普段から開設当初に作成した理念に目を通しケアに取り組んでいる。利用者のケアプランにも、思いや願い、利用者が好きなことややりたいことなどを目標に組み込み、振り返りを行ないながら、職員は理念の共有と実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍で地域との付き合いは出来ていない。区長さんが広報を届けてくださいます。	コロナ禍であるが、町内会の加入を通して毎月、市の広報紙配布を受けている。普段には外気浴・日光浴、周辺散歩などで往来する近隣の方と挨拶を交わしながら交流触れ合いを続けている。コロナ明けの地域との触れ合い交流のあり方について思案を重ねている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍という事もあり、地域貢献は出来ていない状況である。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、運営推進会議は行っていません。市の担当者へ報告は行っています。	昨年から書面開催としてるが、細やかな運営情報や利用者の暮らしの状況をお知らせしながら、委員の意見や提言、要望などを聞き取る工夫をしている。委員の評価なども寄せていただくように取り組んでいる。	今後の地域交流やサービス向上につなげるため、推進会議のメンバーに、警察や消防、子ども関係者など、地域の多様なメンバーに入っていただくことを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者へ不明点を確認したり、相談している。	運営推進会議への参加を通じ、行政情報の提供や助言指導など密な連携を図っている。生活保護担当職員や介護相談員の来訪も受けながら、ケアの充実に繋げている。書類提出は直接持参し、連絡は電話やメールでも行える関係となっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	3カ月毎に、全職員全員で構成する「身体拘束廃止委員会」を職員会議の後に開催しており、管理者が、アンケートや聞き取り等により状況を確認しながら取り組んでいる。研修は視聴教材を活用し、職員各自空いた時間を活用し受講している。玄関施錠は、午後7時から午前6時30分までとしている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行い、理解を深め、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度について研修を行っている。制度を利用しているご利用者様も1名いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご家族様の不安や疑問を尋ね、分かりやすく説明するように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様や、ご家族様からの意見は本年度はきかれていない。	利用者からはお茶の時間等を活用し、家族とは、通院時の面談を通したり、毎月の暮らしぶりをケース記録からコピーし、広報や請求書に同封している。本人の様子を伝えながら、意見や要望を伺っているが、運営に関する希望等は特に出されていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ある理事長報告では、管理者は職員の意見を提案する事が出来る。	職員会議やケアカンファレンスなどを利用して、職員は意見を出し合っている。利用者の便宜を図るため、「シフト時間をずらす提案」があり具体化されている。職員は10代から60代と年齢に開きはあるが、率直な意見交換が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員不足もあり、職場環境の改善は難しいところである。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員には、共に行動し指導している。また、他社のネット研修を利用し、いつでも研修出来るようにしている。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で勉強会や相互訪問は出来ていない。他社のネット研修を利用し、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者が新しく入居した際は、職員の方から話しかけ、本人の思いを把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居の際に、ご家族様の不安点や要望などを確認するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を把握し、緊急性のある事から支援をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	タオルたたみや新聞たたみなどを手伝っていただき、職員と一緒に作業している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院の介助が出来るご家族様にはお願いし、状態を確認していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍である為、対面での面会は出来ていないが、窓越し面会をしていただいている。	年齢とコロナ禍も重なって、馴染みが薄れたり少なくなったりする中、1階と2階の利用者同士、隔月に来訪する訪問理容師やかかりつけ医などとの新たな関係が出来ている。通院時の帰路に足を延ばし、自宅周辺をドライブするなど、思い出の場所を大事にしている。	

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係に配慮して座席を決めている。たまに席替えをして、孤立しないように気をつけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去になったご利用者様のご家族に会った際は、最近の様子などを伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話の中で、ご利用者様の希望や意向のヒントになるものがないか気をつけている。	利用者の半数は気持ちや願いを言葉にできるので、何気ない会話の中から把握できている。好きなことや得意なことを引き出すよう働きかけ、プランターで野菜を育てたり、梅干しをつくったり、洗濯物たたみや茶碗洗い等に意欲をもって取り組んでいる。とりわけ日報駅伝の応援は、利用者の希望により実現できたとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の以前の生活の様子や環境などを確認し、なるべくそれに近づけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子を記録し、何か変化があった時は連絡ノートや申し送りをし、職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議の際に、ご利用者様個々の状況や問題点などを出し合い、改善する為にどのようなケアをすれば良いか話し合っている。	居室担当が中心となって毎月のモニタリングを行い、職員全員のケアカンファレンスを通して、ケアマネが原案を作成し、利用者家族の同意を得ている。見直しは、定例6か月を基本にしている。特に、理念の思いや願いを大切にしたいケアプランについて、心配りしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の様子と夜間の様子をケア記録に記入している。また、連絡ノートも活用し、情報を共有している。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で外出できない事もあり、ご本人やご家族様の希望にて訪問美容室を利用いただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人やご家族様の希望を確認し、かかりつけ医や調剤薬局を利用、その時々状態を相談し、不安なく暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は職員が同行している。状態の変化等を医師に報告し、受診結果に変更がある際は、ご家族様に報告している。	利用開始当初からのかかりつけ医を受診している。通院の同行は、居室担当の職員が行っている。変化等がある場合は、家族等へその旨をお知らせしている。同一法人の老人保健施設の看護師が、週1回半日ほど来所し、受診結果や体調管理への助言を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師が来所しており、健康管理を行っている。その時々状態について相談し、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者様が入院した際に、安心して過ごせ出来るだけ早期に退院できるよう、病院関係者と情報交換し、協力を得ながら速やかな入退院の支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居する際、重度化や看取りについてご家族様に説明している。希望があった際は、医師や看護師の助言に沿って支援していきたいと思っている。	重度化と看取りに関する指針は策定されており、利用開始時に、利用者家族等に説明し了承を得ている。実際に重度化等の対応が必要になった際には、指針はもとより、家族等の思いや願いに耳を傾け、かかりつけ医等の指導や指示を得ながら対応している。看取り対応した職員を中心に今後も研修を重ねたいとしている。	

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木犀 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に来所している看護師から指導を受けたり、先輩職員に相談するように心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、災害に備えている。食料や飲料水の確保をしている。	5月に2階からの出火を想定し、外の非常階段を使用した避難訓練を実施し、消火訓練には数名の利用者も参加した。10月には夜間想定訓練を実施し、車椅子や歩行者利用者、目の見えない利用者の避難誘導等に伴う課題を整理し、具体的な対応を検討している。避難訓練前には近隣にチラシを配布している。	避難誘導した際、利用者の見守りをさせていただく方があればより安全に避難することができます。予め地域の何人かの方に協力者として依頼しておかれることが望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないように注意し、不快な気分にならないよう心掛けている。	利用者一人一人の気持ちに寄り添い耳を傾け、したいこと好きなことなどが出来るよう支援している。決して無理強いや急かしたりはせずに、利用者の気持ちを尊重して介護している。声がけもさん付けで行い、居室への出入りも了承を得て行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、尋ね方を変えてみる等工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先せず、その方のペースを大切し、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時等に特に気をつけ、ご本人の気持ちを伺いながらケアするように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いや食べ残しの多い方には、どのような提供方法が良いのか等、美味しく食べていただけるよう職員同士で話し合っている。	法人本部内の老人保健施設の厨房で、主菜・副菜が調理され、毎日届けられる。ホームではご飯と味噌汁を用意している。現在粥食は3名おり、パン食やおやつなど本人の希望に合わせている。両ユニットとも、職員と一緒に食事をとらず、見守りや1、2名の食事介助を行っている。利用者は台拭きや食器の後始末を手伝っている。利用者が手掛けた、梅干しや梅シロップ、プランターのミニトマトやしそを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様個々の必要性に応じて、糖分制限や水分補給の促し等の支援を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの拒否をされるご利用者様には、ご本人の出来る範囲で介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	認知の低下がすすむ中、早めのお声がけ等で、排泄の失敗を減らせるように支援している。	布パンツ使用2名、夜間のみオムツ使用1名、ポータブルトイレ使用など、利用者の状況に合わせて常に優しい声がけを心がけながらトイレ誘導している。職員の自立維持への取り組みもあって、利用者は失敗もあるが、落ち込みはなく楽しく暮らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様個々に応じて、水分多めの摂取を促したり、下剤で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜に入浴したいとの希望には添えないが、脱衣所を暖めたり、会話を積極的に行うなどして支援している。	午前中の中入浴・シャワー浴で清潔を保持している。季節に応じ、ゆず湯やしょうぶ湯を取り入れたりしながら、利用者は一人でのんびり入ったり、職員と語り合ったり、歌を歌ったりしながら、それぞれに自分の楽しい時間を過ごしている。入浴を嫌がる利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないご利用者様には、話を聴いたり、明るさが気になる時はカーテンを閉めるなどして対応している。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の症状の変化により、薬の効能の確認を行ったり、職員同士で話し合ったりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様に応じて、縫物や貼り絵、塗り絵、習字、テレビ鑑賞等支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でご利用者様の希望には添えない情状だが、通院時や窓越しの面会で気分を変えていただくよう支援している。	コロナ禍で外出機会が減少する中、春の花見や秋の紅葉狩りに巖美溪や達谷窟毘沙門堂方面などヘッドライブに出かけている。また、定期通院の帰路に自宅周辺を廻って来ることもある。今年は利用者の要望に応じて、感染対策をしながら日報駅伝の応援に出かけ喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様はお金の所持はしていない。必要なものがある時は、ホームで立替て対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話で会話できるように対応している。また、手紙を書く支援も行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は太陽の光を浴びて昼間である事を感じていただき、夜間も睡眠を妨げないように配慮している。季節感を出す為壁飾りを工夫している。	大きな南向きの窓もあって明るいリビングになっている。自由に形を変えることのできる六角形のテーブルを上手に活用している。壁には職員と利用者が一緒に作成したクリスマスツリーやサンタクロースの手作り作品等が飾られている。室内にはシクラメンやサボテン等の生花が常に置かれており、心が安らぐ空間となっている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木屋 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士の会話を楽しんでいただいたり、レクリエーションではそれぞれ好きな縫物や色塗りが出来るように備えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から家具などを持ちこんでいる方もいる。ご本人が使いやすいように、整理し、支援している。	居室には、ベッドやクローゼット、洗面台やエアコン等が備え付けられ、仏壇や神棚を置いたり、使い慣れたテレビやソファ、カレンダーや時計、椅子等を持ち込んでいる。ぬいぐるみや小物等で、自分の部屋らしくしており、掃除は、利用者と職員が一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の出来る事は見守り、理解してもらえるような会話の仕方に対応している。一人ひとりの状態に応じて対応を変えたり、声掛けをしている。		